

# Cisco Unified Communications Manager 信頼確認サービス サービス拒否の脆弱性

Medium	アドバイザーID : cisco-sa-20170906-ucm	<a href="#">CVE-2017-6791</a>
m	初公開日 : 2017-09-06 16:00	
	バージョン 1.0 : Final	
	CVSSスコア : <a href="#">5.3</a>	
	回避策 : <a href="#">Yes</a>	
	Cisco バグ ID : <a href="#">CSCux21905</a>	

日本語による情報は、英語による原文の非公式な翻訳であり、英語原文との間で内容の齟齬がある場合には、英語原文が優先します。

## 概要

Cisco Unified Communications Manager の信頼確認サービス ( TV ) の脆弱性はリモート攻撃者非認証により影響を受けたデバイスのサービス拒否 ( DoS ) 条件を引き起こすようにする可能性があります。

脆弱性は影響を受けたソフトウェアによって Transport Layer Security ( TLS ) トラフィックの不適当な処理が原因です。 攻撃者は不完全なトラフィックストリームの生成によってこの脆弱性を不正利用する可能性があります。 正常なエクスプロイトは管理者がサービスを再開するまで攻撃者が DoS 状態に終って影響を受けたデバイスのための TV にアクセスを、拒否することを可能にする可能性があります。

この脆弱性に対処する回避策はありません。

このアドバイザーは、次のリンクより確認できます。

<https://tools.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-20170906-ucm>

## 該当製品

### 修正済みソフトウェア

この脆弱性は Cisco Unified Communications Manager に影響を与えます。 該当するソフトウェアリリースについての情報に関しては、このアドバイザーの上で Cisco バグ ID を参照して下さい。

### 脆弱性を含んでいないことが確認された製品

他のシスコ製品において、このアドバイザリの影響を受けるものは現在確認されていません。

## 改訂履歴

Version	Description	Section	Status	日付
1.0	Initial public release.		Final	2017-September-06

## 利用規約

本アドバイザリは無保証のものとしてご提供しており、いかなる種類の保証も示唆するものではありません。本アドバイザリの情報およびリンクの使用に関する責任の一切はそれらの使用者にあるものとします。また、シスコは本ドキュメントの内容を予告なしに変更したり、更新したりする権利を有します。

本アドバイザリの記述内容に関して情報配信の URL を省略し、単独の転載や意識を施した場合、当社が管理した情報とは見なされません。そうした情報は、事実誤認を引き起こしたり、重要な情報が欠落していたりする可能性があります。このドキュメントの情報は、シスコ製品のエンドユーザを対象としています。